

## 会 議 録

会議名 (審議会等名)		相模原市立図書館協議会		
事務局 (担当課)		図書館 電話042-754-3604 (直通)		
開催日時		令和5年7月26日(水) 18時30分～20時00分		
開催場所		相模原市立図書館 2階 中集会室		
出席者	委員	9人(別紙のとおり)		
	その他	1人(生涯学習課主査)		
	事務局	9人(図書館長、相模大野図書館長、橋本図書館長、他6名)		
公開の可否		<input checked="" type="checkbox"/> 可	<input type="checkbox"/> 不可	<input type="checkbox"/> 一部不可
		傍聴者数		0人
公開不可・一部不可の場合は、その理由				
議 題		<p>1 議題</p> <p>(1) 令和5年度中央図書館機能の検討について</p> <p>2 報告</p> <p>(1) 次世代に引き継ぐ淵野辺駅南口周辺のまちづくり事業について</p> <p>(2) 相模大野駅前の図書館返却ポスト設置について</p> <p>3 その他</p>		

## 議 事 の 要 旨

(大谷会長) 本日は議題が1件と報告事項が2件あるが、報告事項の(1)は議題の(1)の話とかなり関係が深いので、先に報告事項の(1)から始めたい。

### 2 報告事項

(1) 次世代に引き継ぐ淵野辺駅南口周辺のまちづくり事業について

資料2に基づき、生涯学習課から説明を行った。

(遠藤委員) サウンディング型市場調査は、参加したのがどこの会社か公表されるのか。

(生涯学習課) 会社名は公表せずに、アイデアを受ける形となっている。概ね30社程度の参加となり、いわゆるゼネコンから、施設管理系の事業者まで業種は幅広い。10月に結果を公表する際も会社名は公表しないという条件で、アイデアや意見を言いやすい形としている。

(小山委員) 青少年学習センター利用者懇談会に関して、利用にあたっての課題や複合施設に求める機能について意見をいただいたと書かれているが、センターが淵野辺に移ることに對して意見、例えば利便性などについて発言はなかったか。

(生涯学習課) 青少年学習センターの移転整備について、概ねご理解いただいております、絶対に矢部駅の北口になれば困るという内容ではなかった。放課後に子どもが遊びに来ていたりする利用の実態があるので、青少年学習センターとしては場所が移ったとしても、子どもの居場所という点は考慮してほしいといった御意見をいただいております。

(大谷会長) こちらの話は、図書館の、特に中央図書館云々の話と言うよりは、比較的地元に密着した要素が強いものだったかと思う。なお、図書館の部分については、昨年度の最後の方に言っていたタイムテーブルよりも実は少し猶予ができ、今年度1年かけて、まちづくりプランに反映させるべき要素をきっちり作り上げていくことができることになった。当初は、この上半期、実際には8月ぐらいまでに決めて、今年度中に次の段階に進むというような話だったのだが、そうではなくなったので、比較的じっくり話ができる時間的猶予が与えられたかなと感じている。

ふちのベニユースの内容に関して言えば、私からは1点、おおのきた公民館まつりの宣伝に関して意見をお伝えできればと思う。私は通勤で淵野辺駅を利用しているのだが、淵野辺駅北口の1階では告知が凄くよく分かったのだが、2階を歩いていても、この公民館祭りがいつ開催かということはよく分からなかった。本学の学生にも、公民館祭りやってたんだよと言うと、知りませんでしたと答えが返ってくるので、もったいなかったというのが正直な感想である。

また、青少年学習センターの利用意見に関しては、機能面については、初歩的、ユーザー側で操作できる状況を維持して欲しいという意見が出ている。一方で、そうは言ってもそれなりのクオリティが必要ではないかという意見もあったりして、どちらにどう寄せてバランスを取ったら良いのかは難しいところかなという気はしている。青少年学習センターもいわゆる社会教育、生涯学習施設だが、この施設に関してはかなり市民検討会でも意見が色々出ていて難しい点もあるが、異なる意見を踏まえつつ、計画の中に、どう反映させていくか考えていただけたらと思う。

では、特にその他の御意見がなければ、報告事項（１）に関してはこれで終了し、議題１の方に進みたいがよろしいか。図書館に係ることでもし何かあれば、議題の中で御意見をいただければと思う。

（各委員）了承。

## 1 議題

### （１）令和５年度中央図書館機能の検討について

資料１に基づき、事務局から説明を行った。

（佐々木委員）基本方針の第３章の、蔵書構築の方針、蔵書整備目標については、蔵書の数と規模といった観点だけではなく種類についても修正、再構築していく予定はあるのか。具体的に言うと、ベストセラーの本は数多く所蔵する一方で、人文系、社会科学系の本で特に新刊は全然所蔵されない。リクエストして、結構待って、やっと県立図書館等から取り寄せられてといった状況である。そこで、今後は蔵書の質という点についても図書館として考えていくつもりはあるのかお聞きしたい。

（事務局）この基本方針では、中央図書館機能として構築していく資料の質、例えば専門的な資料を中央図書館機能として所蔵するとか、地域図書館、分館、公民館等図書室ではどういった資料を持つべきかとか、そういったことには触れていきたいと考えている。また、具体的に何を収集していくかということについては、基本方針を踏まえた上で、収集方針や収集のマニュアルを整備していくことが必要になると考えている。

（遠藤委員）現状では、市立図書館、相模大野図書館、橋本図書館と分館がある状況だが、旧４町には大きな図書館がなく、この地域の人たちにとって、一番近い大きな図書館は橋本図書館となる。しかし、橋本図書館まで行くということは容易ではなく、旧津久井方面は交通のアクセスも非常に悪い。そこで、こういった地域に対しての拡充は何か考えているか。新しく大きな図書館を新設するというのは予算の制約から難しいだろうが、現在ある市の施設を活用してとか、既にある公民館図書室を拡張する等の計画や考えはあるか。

(事務局) 旧津久井地域の公民館図書室の施設拡張の計画は特段ない。基本方針の中での中央図書館機能として関わる部分で言えば、図書館と比べると旧津久井地域の公民館図書室も旧市域の公民館図書室も蔵書が少ないため、配送体制の強化により蔵書の新しさや、利用者の目線を変えていくことができると考えている。

(遠藤委員) この質問をした訳として、参考資料の現状と課題の中で、図書館数が本市は4、政令指定都市の平均は14で、本市は極端に少ない。例えば川崎市では、十数の地域図書館、分館があり、それぞれの地域図書館で20万冊前後の蔵書を持っており、かなり規模も大きい。川崎市は中央図書館体制は取っていないが、各地域でその地域に住む人のために一定の蔵書を揃えるという考えのようで、それに対して本市は少ないと感じたので質問させていただいた。

(事務局) 遠藤委員が仰るように、本市の図書館数は少ないという課題があるが、本市の公共施設の整備の方針については、今回の市立図書館の再整備のように集約化、複合化の方針が示されており、なかなか新しい図書館を新設するという事は難しい。そのため、公民館等図書室に対しても、中央図書館機能によりサービスの充実を図っていくことが重要だと考えている。

(宮原委員) 中央図書館機能の専門的機能のイメージについて確認したい。現状は、市立図書館、相模大野図書館、橋本図書館の3館が並列の体制で、公民館等図書室がサービスポイントとして足りない部分を補ってバランスよく運営している形なので、3館の蔵書の内容やサービスに関しては、そんなに差がない形で進められてきたと認識している。今回、中央図書館化するという事で、例えば司書採用の職員を中央図書館に手厚く配置したり、予算や選書に関して、例えば先ほどベストセラーの話があったが、橋本や相模大野にベストセラーを割と手厚く配置する代わりに、中央図書館には専門書やレファレンスツールを充実させる等、今までは並列に行っていたものを今後はかなり特色を持たせて、専門性が抜きん出た中央図書館にするために、人員や予算配置等を今までと変えていくということか。

(事務局) 専門的機能でまず想定しているのは、専門的な蔵書や職員の配置であるが、その上で地域図書館の支援をしていく体制を作ることが重要な部分と考えている。人材について、具体的に司書が何人必要といった想定はまだできていないので、基本方針の中で中央図書館機能についてある程度固めた上で、検討していきたい。

(大谷会長) 事前打合せでどの様なことを議論したかについて、お伝えしておいた方が良くと思うので、少しお話ししたい。6月30日、7月11日の2回行っており、基本方針にも書かれているが、新たな図書館ネットワークと蔵書についてが主要な論点だった。当初は比較的中山間地域に関してが話題になり、やはりある程度何とかしなければいけないという議論だった。人口の

数はデータとして見るとかなり厳しいし、拠点となる公民館も点在していて、距離感がかなりあるため、なかなか大変な状態だが、最低限の維持は考えていかなければいけない。ただし一方で、小山委員から後ほど直接補足をいただきたいのだが、小山委員の方で市内の利用状況のマッピングをしていただき、登録率等を見て分かったことは、図書館施設のない地域に対して、どう見ても手は足りていないという状況だった。登録率も低いし、例えば古淵も低かったりするし、相模線沿線等も決して高くはない。図書館の業界用語で言うところのいわゆる全域サービスが、明らかに十分ではないということが分かった。そういったところに対しては、まず理想を言えば全部図書館を造れば良いのだが、そうするためには今の予算の何十倍規模がないとできない。現実としては難しいので、そうすると、やはり図書館のネットワークをどう作るかという観点で、今の配送システムの状況を確認し、結果どういう感じにしていけば、図書館から公民館等図書室へ資料を早く届けられるのかということは確認をした。この図書館の再整備に合わせて改めて、もう少しスピーディーに届ける仕組みをきちんと考えよう、きちんと作ろうということで、この点に関しては参加したメンバーの中では、あまり異論はなかったかと思う。

問題は蔵書についてなのだが、市長が先日再選され、その公約には図書館の図書購入費の話が含まれている。我々協議会としても、散々もう少し資料費が必要だと言ってきたところであり、まだまだ実際にどうなるか分からないので今後注目していく必要はあるが、今までよりは資料費については改善する方向ではないかと思われる。そして、公約として挙げられているということ踏まえた上で、事前打合せで話題になったのが、結局、蔵書新鮮度が図書館も公民館等図書室もとても低い状態になってしまっているという点である。本当は個人的には蔵書は増やしていくべきだと思っているのだが、結局古い本ばかりが凄くある状態になっているので、この状況においては非常措置を取ることも考えなければいけない。具体的に言うと、よく使われない学校図書館を再建する際、まず読まれていない本を除籍して、その後に読まれる本を入れて、そこから再構築する。これが使われていない図書館を再建する方法であり、やはりサービス業として考えた際に、棚に並んでいる商品が昨日来た時と今日来た時で変わってなければ、お店の魅力はないと言える。結局、本市の図書館はそういった状況に陥っているのではないかと思えるので、短期的には統計指標は悪化するにしても、きちんと資料が増えるという前提に立った上で、書架に新しいものが入っていることを分かるようにして、利用者の利便性を構築してはどうかという話である。今は言ってしまうと間違い探しな状態になっており、新しい本がほとんど入ってこないため、たまにせっかく入ったとしても、以前との違いがよく分からず、背表紙の印象も変わらずで、結局全

体が古い感じがしてしまう。しかし、この状態が続くことは良くないので、蔵書に関しては少し非常の措置も含めて考えてはどうかということが話題になった。恐らく、そういった点を踏まえて、この第3章に関してはこうした形で用意してきていただいたのかなと思う。

当然ながら、図書館員が本を除籍するというのは、常識的にはかなりやりにくいことの1つである。ただし、余りにも古い本だらけになってしまうのは問題であり、書庫が古い本全部を収容できる規模かという点、残念ながら新しい図書館にしてもそうではない。現時点での3図書館の古い本を全部引き取ってしまうと、もうそれで限りなくいっぱいになってしまうレベルである。ということを見ると、ある程度協議会の中で議論をして、これはどう考えたら良いのかということに関して、場合によっては意見を出すことも考えなければいけないのではないかとということも、事前打合せの中では少し話をした。協議会としては、そういった非常の措置をとることも、まずは状況を改善するためある程度許容しなければいけないのではないかと、そういった話を多少した。なお、その話のベースになった本市の登録率や貸出状況について、マッピングをしていただいたのは小山委員なので、少しご説明いただけるならお願いしたい。

(小山委員) 図書館から、市民登録者の方々のお住まいの町丁字別の数字を、個人を特定できない形で提供いただき、そのデータと直近の国勢調査のデータを用いて、登録率を算出した。その結果、先ほど大谷会長からお話があったとおり、図書館がある地域の近く、大体半径2~3kmぐらいは登録率がとても高かったのだが、それ以外の地域では低いという結果だった。また、先ほど、話題に挙げた中山間地域にお住まいの方々も残念ながら登録率が低いこともわかった。登録率の高い地域もあるが、それは個別の事情をきちんと把握しなければいけないと思う。また、大谷会長も仰っていたが、中山間地域だけではなく、相模線沿線の上溝から原当麻にかけての地域に関して、お住まいの人数自体が少ないといったことはあるかもしれないが、いわゆるサービスポイントとして図書館のサービスを受けられる場所があまり多くないということもあり、登録率が低い。加えて、淵野辺付近であったとしても、ここから少し離れたところ、例えば西の方とか、古淵駅の辺りとか、ほんの少し離れただけでも随分様子が変わることが見えた。公民館がその地域の公的なサービスを受けられる大きな柱になっており、そこを強化していかにその周りの地域の方々にサービスをお届けするのかということを考えて良いのではないかと、それはデータに基づいて検討を進めるべきではないかとということを示したく、分析を試みた。

その際に、先ほど大谷会長からも話があったが、それぞれの地域への図書館サービスの重要なものの1つとして、資料をお届けすること、情報をお届けすることがある。その情報をお届けするためのネットワークが、今

相模原市では配送のネットワークであるが、いかにその時間を短縮して、できるだけ速やかに住民の方々が求める情報をお届けしていくか、そのための仕組みづくりが必要である。仕組みづくりには制度的な仕組みと物理的な仕組みの両方とも必要になるので、まずは中心的な課題の一つとして捉えなければいけないということについて共通認識を図った。また、遠藤委員も仰っていたが、中央図書館機能の基本方針ではあるが、全市を見渡した計画、全市へのサービスを見越した基本方針であるべきであり、そういったことをきちんと文書の中に盛り込んだほうが良いのではないかなというような意見交換を行い、共通理解を得られたのではないかと考えている。

最後に、データに関わる話もしたい。本日は小中学校の校長先生もいらっしやるが、本市の子供たちの居住している場所もまた偏在化しており、たくさんの子供たちがいる地域もあれば、1学年1クラスしかないような地域も存在する。さらにその数がある地域では急激に減っていたりして、これから先どうなっていくのかということも見越した上で、例えば10年なのか20年なのか、今後の地域の居住形態、地域の在り方も想像しながら、この計画、あるいは基本方針というものを定めていくべきではないかということ、事前打合せの席では皆さんと一緒に話した。

(大谷会長) この事前打合せの話題を比較的踏まえた上で、基本方針の特に第3章あたりは作られているものかと思う。ただし、なかなかこう予算が潤沢であれば色々な手の打ちようがあるのだが、必ずしもそうではない以上、よく考えていかなければいけない。1 図書館施設としての新しい中央図書館の話もあるが、基本方針については市全体を見渡したものという完成形を考えた際、申し訳ないが率直に言うと、恐らく今までは3図書館がそれぞれの地域図書館としての何かは追求していたのだろうが、結果としてそれまでであり、つまり3図書館のサービスが直接届かない地域に、誰がどう考えて何をするのかということが調整されてこなかった。データの結果からしても、この部分が残念ながら弱かったと言わざるを得ないと思う。

だからこそ、その点をどうするかというのが新しい中央図書館には求められ、その際に、あまり予算が潤沢でない以上、リソースをどの様に集中と分散していくのかということを考えていかなければいけない。と同時に、だからと言って、どうせこの先人口が減るから中山間地域はどうでも良いという方向性は当然間違った話であり、相模原市にお住まいである以上はそういった地域の方々にもきちんと、完全に等しくは難しくても、可能な限りサービスを提供していくべきだという観点に立って、ある程度中長期的な視点からどの様にしていくべきかを考えていく必要があるのではないかなと思う。それぞれの地域からすれば、とにかく図書館施設があれば一番良いということになるとは思いますが、なかなかそれは難しいので、可能な限り、それぞれの地域にどうやってサービスを届けていくかが大事な部分で

ある。なお、ここでは比較的物理的なものが話題になっているが、例えば一方で、電子的なサービスや資料はどの様にしていくのが良いのかとか、そういった部分もやはり考えていくべきである。新しい図書館にふさわしいそれなりのものを打ち出しつつ、きちんとやっていくということを検討し、それを基本方針に更に盛り込んで、協議会全体としてどう考えるかということになると思うので、事前打合せの内容についても御紹介させていただいた。次の協議会ではもう少し、それなりに整った素案が出てくるので、そこに向けての御質問や御意見、もっとうこういった部分を手厚くお願いしたいとか、何かあればいただきたい。

(遠藤委員) 私自身は、本を選ぶ際に、たくさんの並んでいる本の中から選ぶということが結構多い。特定の本が読みたくて、これをお願いしますということではなくて、漫然と並んでいるたくさんの本の中から、これ面白そうだなって選ぶ方が理想かなと思っている。今の中山間地域等は、本を選ぶという状況にたどり着けない人が多いのかなと思う中で、本市には昔みどり号という移動式図書館があり、私も小学校の時使っていた。学校に来てくれて、放課後なんかに本を選んで借りることができた。今はなくなってしまったが、例えば、中山間地域等のなかなか本を選ぶということができないような所に、この様な移動図書館ができれば良いなと思う。個人的希望であるが、その地域の方々の本に触れる機会も増えるのではないかと思う。

(大谷会長) 移動図書館は、石原都政時代のディーゼル車規制によって関東では激減した。ただし、全国的には、むしろ石原都政の後にピークになった地域もある。全国で見れば、地域によっては、このサービスは大事ですということと運用している。ただ、車両にとにかく目一杯搭載する以上、やはり車にとってはかなり過酷な環境になるので、それ相応のコストがかかることも事実である。数年単位で車両更新とか、そういったことを考えていかないといけない。ぎりぎりまで積載し、当たり前だが重たいものを日夜積んで動いていけば、精密機械である以上は当然故障するリスクが高まり、ランニングコストはどうしても発生する。全国的には、関東だと本当にもう今やあまり見かけなくなってきている移動図書館だが、全国ではそうでもないというのも事実である。ただし、やはりディーゼル規制の影響が大きくてかなり消えてしまったという印象はある。御意見として、地域の人に直接届けるということは重要な点かと思う。一方で、例えば書架をもっと簡単に撮れる技術があれば、バーチャル書架という可能性もあると思っている。今日の書架では少しやり過ぎだろうが、何かある程度のスパンで示してということとは考えられるので、そういうことも含めて色々考えていくことが大事かなと思う。

(小山委員) 参考までに紹介すると、コロナ禍に東京学芸大学の図書館で、そういったことを実際に行っており、学生がこの本が欲しいと書架の写真を見て指

定すると、郵送で本が学生の自宅に届くというサービスがあった。物理的なアクセスと同時に、ICT を上手に活用したサービスの開発についても、もしかしたらこの機会に相模原市の図書館としてチャレンジしても良いのではないかと考える。

(大谷会長) 残念ながら予算が潤沢ではないので、一気呵成にもの凄く本を増やすとか、図書館施設を増やすのは難しいだろうが、今の話の様に、場合によっては何かやり得るものがあれば、少し考えてもらうということは十分あり得ると思う。ぜひ図書館側へ、そういった御意見や感想を寄せていただければと思う。また、図書館が近くにない地域のほかに、例えば学校との連携はどうなんだろうという点も、事前打合せでは我々も少し話題にしていたかと思う。

(渡部委員) 学校からは全然離れてしまうのだが、物とお金がもうないのだから、人にもう少し焦点を当てるべきであり、中央図書館に人事を寄せていく必要があるのではないかと。役割を決めてから人を決めるという話だったが、もう強い意志を持って、今まで並列でやっていて真ん中をつなげなかったところに、指令を出す人がいなければいけないのではないかと思う。

(大谷会長) 実は我々もその点に関しては、かなりどうしたものかという点で、意見は出ている。

(渡部委員) 形だけ作っても、今までどおり仲良くやっていきましょうと言ったら、回らないと思う。人を寄せて、そこに権限与えてあげないと変わらないのではないかと。最初は色々トラブルは起きるかもしれないが、やってみたら上手くいく可能性も増えるのではないかと。せっかくだからやってみないかというのが個人的な思いである。

(大谷会長) せっかく司書職の職員がいるので、やはりそういう人たちを集中することで、何か色々なものを生み出せないかという意見はあったし、またそれに関しては、中途半端では駄目だろうなといった意見も出ていた。渡部委員の御意見は仰るとおりであり、やはり図書館の職員にとっても働き方に関わり関わる大きな話でもあるので、色々な側面を踏まえながら図書館の方でも少し考えていただいて、この基本方針の中で、そういった点についても示していただけたらなと思う。

(大谷会長) 他に何かなければ、この件に関しては御質問や感想をぜひ後日図書館の方にお寄せいただきたい。では議題に関しては本日はここまでとし、次回はもう少し素案というか、具体的にどうするという部分が示されると思うので、そこでまた考えたい。続いて、報告の(2)に進みたいがよろしいか。

(各委員) 了承。

## 2 報告事項

### (2) 相模大野駅前の図書館返却ポスト設置について

資料3に基づき、事務局から説明を行った。

(佐々木委員) 伊勢丹の跡地が綺麗になった後も、このポストは継続して設置されるのか。

(事務局) 現時点では明確に決まっていない。元々は、伊勢丹跡地の工事による相模大野図書館へのアクセス機能の低下に対する対応という趣旨だが、相模大野図書館へのアクセス機能が戻ったとして、その後のことは未定である。

(宮原委員) これはお願いになるのだが、本学から相模大野図書館は凄く近いので、学生によく行くように言っているのだが、行き方が分からない、サインをもっと設置してほしいという声はもの凄く多い。元々伊勢丹があった時からそういった声はあったのだが、課題を出しても行けませんでしたという声は今年だけでかなり多い。今後の改善に向けて、一緒に少し考えていただければ有難い。

(大谷会長) 私は以前、脇の方を歩いて行った記憶がある。

(宮原委員) その脇のところがかく分からなかったり、通って良いのかなと思ったりするみたいである。

(大谷会長) コロナ禍で、多くの人の地理感覚が低下している気もする。ところで貸す方に関しては、例えば事前に暗唱番号を登録させた上で各種のポストの様なものを用いてと、ICTを活用して何か取組を行っている図書館もないわけではない。ただしそういう場合は、いくつかの例を見たことはあるが、建物の中にないと難しい。

(事務局) 色々事例を調査した時に、日本郵便で郵便局の中で返却ポストや貸出ポストを設置している例があった。しかし、民間企業なので場所の賃借料等の費用が発生してくるので、需要と供給のバランスや対費用効果など色々な面を踏まえる必要があるし、山間部での本の配達の場合もあったが、どこまでやるかというのはなかなか難しい面がある。

(大谷会長) 配達サービス等は図書館法上は有料でやっても構わないという認識で良いか。

(宮原委員) お金を徴収している事例は複数ある。

(事務局) 問題ないという認識である。

(大谷会長) 先ほどの話題と関連付けてにもなるが、実際できるかどうかは置きつつも、色々可能性は考えていくのが良いと思う。

(小山委員) 返却ポストに関して、よく利用されており、需要に対してきちんと応えられているというのはとても良いと思う。今後も期待したい。この取組は、相模大野駅、相模大野図書館だけの特別な計画になるのか。あるいは、試験的な試みであって、これから他にも広げる予定を持っているのか。相模

原市の図書館としてどの様に考えているのか、今後の計画について教えていただきたい。

(事務局) 相模大野図書館の事情として、市立図書館と橋本図書館は24時間返却が可能なポストがあるのに対して、相模大野図書館はグリーンホールの中にあり夜間は閉鎖されてしまうため、23時から朝の7時までは入れない、返却できないという状況があった。他館では24時間返却できるという状態だったことも、駅前ポスト設置に至った要因である。

(大谷会長) 相模大野図書館の事情はそういうことだとして、そこを超えてもう少し他の場所まで広げる計画はあるのかという御質問だったと思う。相模原市立図書館として、あくまで相模大野図書館の事情を踏まえて他館とのバランスを取ったに止まるのか、他の場所まで広げる考えはあったりするのか。

(事務局) 今回は、ひとまず相模大野図書館の不便さを解消するという趣旨が大きく、今のところ他に広げるという具体的な計画はない。ただし、環境の変化等を踏まえて、今後は他の場所に設置を考えていく可能性はある。

(大谷会長) そういったことを全体的に考えていくのは、やはり中央図書館だと思うので、その辺の意識改革という点も気にしていただけると良い。他になければ報告事項について終了したい。

(各委員) 了承。

### 3 その他

(大谷会長) その他については、特に予定されている内容はないが、連絡事項であったり、本日の内容全般について何かあればお願いしたい。

(小山委員) 議題1の中で話題になった収集方針だが、Webサイトで公開されている、もしくはどこかで見ることができるという理解でよろしいか。

(事務局) 収集方針は公開してないものとなる。

(小山委員) 承知した。

以 上

## 相模原市立図書館協議会委員出欠席名簿

	氏 名	所 属 等	備 考	出欠席
1	大谷 康晴	青山学院大学コミュニティ人間科学部教授	会 長	出 席
2	高柳 眞木子	みらい子育てネットさがみはら 連絡協議会副会長	副会長	欠 席
3	渡部 賢一	相模原市立相原中学校長		出 席
4	竹内 啓子	相模原市立相原小学校長		出 席
5	末永 暁子	相模原市公民館連絡協議会副会長		出 席
6	金子 友枝	相模原市文化協会副会長		出 席
7	小山 憲司	中央大学文学部教授		出 席
8	宮原 志津子	相模女子大学学芸学部教授		出 席
9	遠藤 弘一	公募		出 席
10	佐々木 彩	公募		出 席